

「鹿児島県青少年海外ふれあい事業」シンガポール青少年受入業務 委託仕様書に係る留意事項

1 事業概要について

- 行程・訪問先は、本県の歴史や文化、産業や自然等を理解できる場所とすること。
- シンガポール青少年 10 人。随員職員は 2 人である。

2 業務内容について

- 行程中は、今年度派遣された団員や過去の派遣団員（ウイングビートクラブ）等（以下団員等）を帯同させること。
- 行程中は、通訳を 1 人帯同させること。通訳の業務時間は、少なくともシンガポール青少年のホテル出発時からホテル到着時までとする。（1 日目は出迎え時から、6 日目は見送り時まで）シンガポール青少年と不自由なくコミュニケーションを行える英会話スキルを必要とする。（ホームステイ時には通訳不要である。）
- 意見交換会（11/23 昼食の前後とする）では、テーマに従って団員等 10 人とシンガポール青少年で討議を行うこととしているため、会場を確保すること。原則的に、この時間は通訳を 3 人帯同させること。（意見交換会を学校訪問に組み込む際は、団員等はこの時間の参加は不要である。通訳は可能な限り訪問先からも出してもらおうこと。）
- 体験活動の内容は一任するが、青少年交流の視点を含めたプログラムになっていること。
- ホームステイは 1 泊以上とする。シンガポール青少年 10 人、随員職員 2 人の計 12 人分とする。原則的に 1 人 1 家庭とするが、難しい場合はその限りでない。
- 施設訪問活動の内容は一任する。学校訪問は半日以上とする。大学訪問が望ましいが、高校等訪問でもよい。
- 県庁表敬訪問（11/25 とする）の滞在時間はおよそ 1 時間とすること。（対応者の都合によって、時間変更をさせてもらうことがある。）
- 鹿児島中央駅での出迎え（団員等の帯同はこの時点からとなる。）及び見送りをを行うこと。帯同する団員等の交通手段も確保すること。
- 1 日目の夜と 5 日目（または 4 日目）の夜にそれぞれ歓迎会、送別会を行い、司会進行も含めた運営を行うこと。歓迎会の参加者は、シンガポール側 12 人、県 2 人、受入側団員等 10 人とし、加えて団員等 10 人の宿泊を確保すること。送別会の参加者

は、シンガポール側 12 人，県 4 人，受入側団員等 10 人とし，鹿児島市内での開催とする。団員等 10 人の宿泊は不要である。なお，歓迎会，送別会はいずれもアルコール不要である。

3 想定される経費内訳について

- 宿泊代（ホテルは，令和 5 年度受入と同等以上のレベルとする。）

※ 令和 5 年度のデータが必要な場合は，県青少年男女共同参画課青少年育成係まで御連絡ください。

1 日目（23 人分・朝食付き・シンガポール青少年と受入側団員等は男女は分けた上でミックスによる団体部屋可）

2，4，5 日目（シングル・朝食付き・12 人分）

3 日目（ホームステイ・12 人分）

- 食事代

	11/22 (1 日目)	11/23 (2 日目)	11/24 (3 日目)	11/25 (4 日目)	11/26 (5 日目)	11/27 (6 日目)	11/28 (7 日目)
朝食	—	○	○	○	○	○	—
昼食	—	○	○	○	○	○	—
夕食	歓迎会	○	○	○	送別会	—	—

朝食…ホテル等での朝食でよい。（2 日目…23 人分，他 12 人分）

昼食…2 日目…23 人分，他 12 人分

夕食…ホテル内外どちらでもよい。

（歓迎会 24 人分，送別会 26 人分，他 12 人分）

昼食，夕食においてはオードブル形式による食事でもよい。

必要に応じて，アレルギー等（宗教上の理由により食べることができない食材を除いた食事）の対応食を準備すること。

- 移動交通手段経費

移動においては，中型バス以上とすること。

プログラムの内容によっては，その他の交通機関を使用してもよい。

- ホームステイ対面式，鹿児島県青少年との意見交換会会場費

シンガポール青少年は，ホームステイ対面式でパフォーマンスを行うことが予想されるので，屋根付きの会場を確保すること。意見交換会では，プロジェクターを使用したプレゼンテーションを行うので，30 人程度の部屋を用意すること。

- 歓送迎会経費

会場を確保し，送別会ではシンガポール青少年がこれまでの交流の記録を紹介することから，PC，スクリーン，プロジェクター，周辺機器を準備すること。会場の広さに応じて，マイク等も準備すること。

○ 県庁表敬訪問記念品代

県からの記念品を準備すること。進行・会場設営等は県で行う。県側の通訳は県で用意する。

【参考】

(R5) 団体：屋久杉花瓶 個人：トートバッグ・ハンカチ・缶バッジ

(R1) 団体：糸びな，個人：本場大島紬のストラップとボンタンアメ

(H29) 団体：錫の一輪挿し，個人：本場大島紬のストラップと鹿児島ラーメン

4 その他

○ クレアシンガポール事務所を通してシンガポール側とのやりとりを行うこと。同時にメンバー一覧，ホームステイマッチング等の情報（英語）の翻訳も行うこと。シンガポール事務所とのやりとり（メール）は，県にもCCにて知らせること。交渉に困難が生じた場合は，県がサポートする。

○ シンガポール青少年向けにしおり（英文）を作成すること。日程表一覧，日本での生活習慣紹介等となる。団員等用にしおり（日本語）の作成も必要となる。

○ シンガポール側の挨拶についてはあらかじめ翻訳を行うこと。シンガポール側が用意してきた劇やプレゼンテーションなど，シナリオがあるものについても同様である。

○ 受入の記録を写真等で残すこと。必要に応じてシンガポール側やマスコミに提供したり，県ホームページで紹介したりすることもある。